

今後の100年を見据えたまちづくり



未来の大牟田への思い

問 今後の100年を見据えたまちづくりへの市長の思いを聞きたい。

答 未来を担う子供たちがふるさとへの愛着と誇りを高め、また、多くの方々が大牟田に住みたい、訪れたいと思うまちづくりに向けて誠心誠意取り組む。子供を産み育てたいと思ってもらえる環境づくりと教育の充実や産業の多様化と雇用の確保に重点を置く。

子育て支援の推進

問 平成30年度設置を目指す(仮称)子育て世代包括支援センターの進捗状況を聞きたい。

答 他都市の情報の収集や既存の母子保健事業の拡充を含め検討を行っているが、場所の確保、助産師等の専門職の確保、特に重要となる産前産後のサポート、産後ケアの充実に向けた事業の構築が課題と認識している。

再発言 (仮称)子育て世代包括支援センター事業は、市長が言われる子供を産み育てた

いと思ってももらえるような環境づくりの基本である。

29年度に産前産後のケアの課題を解決することにより、新たに来年度の国の補助メニューを受けることができるよう、今後も未来を見据えた取り組みを進めてほしい。

市民との協働に取り組む職員の意識改革

問 市民とともに事業を進めるに当たり、思いや目的を一つにするための職員の姿勢や情報共有のあり方を聞きたい。

答 職員には、市民の思いをしっかり受けとめ、どうすればその思いを施策に反映できるかを考え、それを市民にフィードバックして市民としっかりした対話をしてほしいと考えている。

移住・定住の促進

問 アクションプログラムに掲げられている「お試し居住」の取り組みの内容を聞きたい。

答 東京にある福岡県の移住相談窓口では、体験居住を希望する人が増えており、空き家の貸し出しやツアー方式などがある。本市でも早ければ今年の夏ごろから実施したい。

再発言 空き家の活用ということでは、現在、大牟田に多くある空き家を活用できるの

でよい取り組みだと思う。

大牟田に合ったお試し居住の取り組みの構築を要望する。

問 2月に会派で東京有楽町にあるふるさと回帰支援センターを視察し、相談員の方々との意見交換で大牟田市のイメージアップを図る重要性を実感した。その方策について聞きたい。

答 シティプロモーション総合戦略の中にもイメージアップの考え方や取り組みを検討し、載せていきたい。

再発言 満を持して発表された公式キャラクターのジャーフは、シティプロモーションを進める上で目玉となり、子供たちにも夢のある公式キャラクターの誕生である。その有効な活用を要望する。



防災士の育成

問 防災活動には、男女双方の視点が不可欠である。防災士育成講座の取り組みでも女性の一定割合の選出が必要と考えるが、見解を聞きたい。

答 各校区から防災士の資格取得に2名から3名の方を推薦いただく際は、極力女性の資格取得にも配慮した推薦をお願いしたいと考えている。